

成果指標				
成果指標	全生徒数／生徒用パソコン台数			
指標設定の考え方	IT新改革戦略における教育情報化の主な目標値			
区分年度	25年度	26年度	27年度	
目 標	3.6人／台	3.6人／台	3.6人／台	0
実 績	5.5人／台	5.4人／台	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	各学校で独自性のある授業を実施することで、ITに関する興味と知識を形成することができている。平成27年度には、1校リース期間が満了となる。新契約時には、ソフトのバージョンアップ等についても検討する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	情報活用能力の向上に一定の成果はあげてきたが、今後はタブレットなど一層多様化するIT機器を活用して教育活動を推進していく必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮る。
意見、課題	行政評価委員会抽出事業

行政評価委員会の答申

<p>外部評価 (行政評価委員会)</p>	<p>・成果指標がそっぽを向いている。パソコンの1人当たりの台数が何台ということではダメである。・ITの環境を整備するというのは、時代のニーズとして必要だと思う。・教育委員会と学校の担当部署が基本計画から一緒に検討し、環境をどう整備していくかなど、検討しないとイケない。・本当に整備するなら、パソコン教室だけでなく、どこの教室でも使えるくらい力を入れた整備が必要だと思う。・機材だけ揃えばいいという話ではなく、やはり何を教えるべきかだと思う。内容にもう少し重点を置いてほしい。・若いうちからITに慣れ親しむことが重要である。また被害に遭うというITに潜む問題を教えることも重要である。・大学や業者などが持つ、最新のパソコンでやることを考えていただきたい。・事業の目的が台数を整備するというのであれば、今の課題認識の評価を書くことは正しいことかどうかと思う。・教科内容に踏み込むのはどうかと思うが、委員会でこういう意見があったという注文くらいは、お伝えいただきたい。</p>
---------------------------	--

経営者会議の最終判断

<p>事業の方向性</p>	<p>現状のまま継続する。</p>
<p>意見、課題</p>	